

○渡辺議長 次に、渡邊洋介議員。

〔渡邊洋介議員質問席へ〕

○渡邊議員 会派新政自民の渡邊洋介でございます。本日は、米子市議会の一般質問、初めての登壇でございます。まず、私をこの議場へと送り出してくださった市民の皆様に対して、心より感謝申し上げます。皆様から託された一票一票、この重みを、今この演壇で重みとして、身の引き締まる思いを感じております。

また、議員活動の第一歩を支えてくださっております諸先輩方、先輩議員の皆様、そして市政の運営に日々尽力されております伊木市長はじめ執行部の皆様、本日この場を整えてくださいました全ての皆様に感謝を申し上げます。新人ゆえ至らぬ点もあるかと存じますが、誠心誠意、質問させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、質問のほうに移りたいと思います。伊木市長におかれましては、就任以来、住んで楽しい米子、楽しいまち米子の実現に向け精力的に取り組んでおられるところだと思います。本日は、その柱の一つとなる中心市街地の活性化、そして未来を担う次世代の育成と持続可能なまちづくりについて、市長及び執行部との認識を共有し、今後の前向きな検討状況について確認をさせていただきたいと思います。

それでは、まず、中心市街地の活性化について伺います。

米子駅南北自由通路の開通により、本市の玄関口は劇的に変化しました。また、目久美公園等の整備も行われ、ハード面における整備が進んでいるのだと実感しているところであります。そうした中、今後重要となるのは、訪れた人がいかに安全に過ごせるか、いかに

楽しめるのかというソフトの視点でございます。今年の３月に駅前で実証実験が行われたことは記憶に新しいところです。私も様々な御意見を伺いました。

人が集まってにぎやかだ、座れるスペース、座ってみたらくつろげた、そういったポジティブな御意見も伺いました。しかし、最も多かったのは、すぐ後ろを車が通る、そして怖いと。あと、車両が衝突してくるのではないかという安全面に対する不安でございました。にぎわいを生む前提には、安心・安全が不可欠です。いろいろな御意見等アンケート結果が出ていると思いますが、執行部におきましては、実証実験の結果、分析、評価をどのようにされていきますでしょうか、まず伺います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 そうしますと、答弁をさせていただきます。歩行者の通行量につきましては、イベント時には多くの人が訪れていただいたものの……。

○渡辺議長 ちょっとマイクが遠いんじゃないですか。

○西川総合政策部長 すみません。じゃあ、改めて、歩行者通行量につきましては、イベント時には多くの方々に訪れていただいたというふうに認識しておりますものの、平日につきましては、前年同期に比較いたしまして同程度の水準であったというふうに認識しております。

次に、周辺店舗への売上げへの影響につきましては、多くが変化がございませんでした。ただ、一部の店舗では売上げが上がったように思うとの回答もいただいたところでございます。それから交通状況につきましては、周辺の交通環境への大きな影響は認められな

かったものの、にぎわいについては、広げた歩行空間の民間事業者の積極的な活用に向けたさらなる巻き込みが必要というふうに分析をしているところでございます。以上です。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 ありがとうございます。実証実験において周辺店舗の多くが変化なしという回答をいただいているという現状は、裏を返せば、現在の計画が民間の皆様にとって魅力を感じさせるものにはなっていないという証左でもあると感じております。

こうした厳しい実態を踏まえ、今後の活性化をさらに推進する上で、当局は現在どのような点を次のステップに進む上での課題として捉えていらっしゃるのでしょうか。例えば官民連携の在り方であったり、地権者をはじめとする地元の方との合意形成であったり、様々な側面があると思います。こうした点を含め、現在、当局が直面されております課題、その解決に向けた認識について伺います。

○渡辺議長 石田経済部長。

○石田経済部長 本市が進めてございます歩いて楽しいまちづくりの取組では、米子駅周辺や角盤町周辺、商店街エリアなどにおきまして、人々が歩き、集い、多様な活動を行うことができる空間への転換を目指し、これまで道路や公園などの整備を進めてきたところでございます。

今後の方向といたしましては、エリアの回遊をどのように促進していくのが重要と考えておりまして、公共交通等の利便性を高め、誰もがスムーズに訪れていただき、集いやすい環境をつくり上げていくことが大切であると考えてございます。中心市街地のにぎわいの中核をなす商店街エリアにおきましては、多様なイベントを継続

して開催されるなど、にぎわい創出に向けた取組が進められております。その一方で、担い手の不足や組織力の低下、さらには空き店舗の増加といった課題に直面している状況でございます。引き続き課題解消に向けサポートをしていく考えでございます。以上です。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 ありがとうございました。エリア間の移動とか商店街のサポートなど、現場に即した課題を捉えていただいているというふうに感じました。こうした取組をさらに生かすためにも、私、点から面へ、先ほど加藤議員からもありましたが、いろいろとそういう視点、転換が不可欠だと考えております。現在はすばらしい点分散している、それらを結びつける核というんですかね、コアがまだ見えてきていないというのが現状かと思います。回遊を促すためにも、人々が集い、全体をつなぎ止める象徴的な拠点づくりについて、ぜひ一緒に知恵を絞っていただけたらと思います。

その点を含めて次の質問に移ります。こうした点から面への展開を描く上で欠かせないのが、民間プレイヤーとのより深い連携です。空き店舗の活用やエリアのブランディングには、行政の力だけでなく、民間プレイヤーとのより深い連携が不可欠です。現在、様々な企業や地元の方々が米子のためにと手を挙げていただいております。そのような商店街や民間事業者様との間でどのような次の一手を検討されているのか、特にその中でも、若者がここで商売を始めたい、ここで活躍したいと思えるような伴走型の支援体制の強化について、さらなる支援を検討されているのか、市の考えを伺います。

○渡辺議長 石田経済部長。

○石田経済部長 民間のプレイヤーの皆様との連携というところ

で最初に答弁させていただきます。中心市街地の空き家、空き店舗の活用につきましては、本市と地元金融機関が共同出資しております「よなご住んで楽しいまちづくりファンド」を通じまして、エリアの魅力向上やにぎわい創出につながる新たな事業の立ち上げを支援してるところでございます。現在、法勝寺通りでは、ファンドの案件としまして第3号の案件で法勝寺町E N N E（エンネ）事業がスタートしてございます。レンタルオフィスやコワーキングスペースの運営と併せ、スタートアップを支援し、様々な人が集うまちの学び場をつくることを目指してございます。

また、第4号案件として実施されます「B _ l a b（ビーラボ）」事業におきましては、様々な企画を通じて学生と地元企業がマッチングできる場所として展開をされる予定でございます。こうした新たな事業を伴走支援していくことで、商店街エリアの課題解決とにぎわい創出を図りたいと考えてございます。

次に、若者に対する伴走というところでございますが、現在、米子商工会議所などの関係機関と連携しまして、創業を考えておられる、もしくは創業後における継続的な相談対応や資金調達、税制面のサポートなど、様々な創業支援を行っているところでございます。今後は、先ほどお伝えしました法勝寺町E N N E（エンネ）や「B _ l a b（ビーラボ）」といった事業者さんと連携を深めまして制度の周知を図りまして、引き続き創業意欲の高い若者への伴走支援を行っていききたいというふうに考えてございます。以上です。

○渡辺議長　渡邊議員。

○渡邊議員　ありがとうございました。米子市においても、若者が手を挙げやすい、頑張っているんだというところ、しっかりと施策

を用意してるんだということ、もっともっと用意してますので、発信していただければと思います。まさに先ほど言及がありましたENN（エンネ）や「B _ l a b（ビーラボ）」、そういった若者の熱源となる点が生まれつつあることは非常に心強いことだと感じています。ただ、こうした専門的な拠点を一般市民の方や観光客の方までも巻き込む面の動きへとどう広げていくか、そのための具体的な方策について次の質問に移ります。

さきの3月議会において、道の駅の設置についての質問に対し、執行部が高規格道路の整備状況を見極めて検討すると、そういった旨の答弁をされたとは私は認識しております。もちろん広域交通網との連携は重要です。それは承知しております。ただ、インフラ整備を待つ間にも観光客が中心市街地を素通りし、近隣都市へ流出してしまう懸念は拭えません。

そこで、私は、民間の活力を導入した都市型拠点施設といった複合機能を持った施設を中心市街地に設置することで活性化に直結させる、そういったことも選択肢ではないかというふうに考えております。米子城跡や加茂川エリアといった既存の観光資源をつなぎ、観光のゲートウエー、玄関口でありながら、買物や散歩の合間に誰もがふらりと立ち寄れる市民の日常の居場所や交流拠点でもある、そんな象徴的なローカルハブとなる施設の検討が必要ではないでしょうか。優れた観光資源や人が集う各エリアに魅力的なパーツは個別に十分にそろっております。市長の答弁にもありました地域振興策として何が有効であるか、そういった視点に立ち、観光の回遊性のみならず、生活の回遊性も含めた多角的な調査・研究を今から進めておくべきだと考えますが、当局の見解を伺います。

○渡辺議長 西川総合政策部長。

○西川総合政策部長 そうしますと、御質問いただきました、本市におきましては、先ほど石田部長から答弁をさせていただきました各所の整備でありますとか、そういったことに加えて、歩行者の利便増進道路、いわゆるほこみちと言われておりますものでありますとか、それから土地利用の規制緩和、それからイベント開催補助金のようなソフト面での施策というのでも展開してきたところがあります。

今後につきまして、先ほど議員から御提言ございましたように、民間事業者による公共空間での利活用でありますとか民間施設の設置というのを促し、周遊観光、それから市民の交流促進による恒常的なにぎわい創出へつなげていくといったようなことは重要な視点になるものだとして認識しております。これらの点を踏まえまして、民間事業者の意見も伺いながら、効果的な取組について調査・研究を進めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 ありがとうございます。民間の意見を取り入れながらも、いろいろ調査・研究を進めていただけるということが大変心強く感じております。これまで整備されてきた各エリアの点を確かな面へと昇華させていくためには、やはり全体を束ねる象徴的な拠点が必要だということに考えております。インフラの完成を待つだけではなく、今ある米子のポテンシャルを最大限に引き出し、市民と来訪者が日常的に交差する米子の顔となる拠点の具体化をスピード感を持って進めていただくことを強く要望したいと思います。

それでは、この項目の最後になりますが、市長の政治姿勢について伺います。市長は常々、歩いて楽しいまちづくりの重要性に言及されておられます。これは単なる経済活性化にとどまらず、健康増進や環境負荷の低減、ひいては市民のＱＯＬ、いわゆる生活の質の向上に直結するものであると私自身も深く共感し、その賛成の立場でございます。私は、今後、中心市街地の単なる商業を営む場として捉えるだけではなく、子どもから高齢者まで多世代が自然に集い、交流し、心のよりどころとなる居場所としての機能を今よりさらに強化、発展させていくべきだと考えております。生活の質を高めるためには、そこに行けば誰かに会える、安心して過ごせるという居場所の存在が不可欠でございます。市長が描く将来ビジョンと、この点において私の目指す方向性、一致しているものだと確信しております。ですが、改めて市長の力強い決意を伺わせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○渡辺議長 伊木市長。

○伊木市長 まさに今、渡邊議員が御指摘をいただきましたとおり、今、歩いて楽しいまちづくりをずっとやっておりますけれども、その中身といいますのは、やはりＱＯＬ、私たちの暮らしの質を高めていくということに大きなポイントがあると、私もそのように思っております。

そもそもこの事業を進めていこうと思った幾つかの発端がありまして、それは、一つには高齢者の方々の免許返納の問題がございます。それから、町なか、まさに今指摘をいただいた中心市街地の活性化をいかに図っていくのか、中心市街地は御存じのとおり車でなかなかちょっとアクセスがよくない場所があったりもいたしま

す。駐車場が少なかったりとか、そういう制約もございます。また、公共交通をこれからも持続可能な形で維持していかなければいけないという課題もあります。

そして、もう一つ御指摘いただきましたけども、歩くことによる健康の維持ということもございます。様々な課題を一つのテーマで組み合わせてみたのが歩いて楽しいまちづくりでございます。やはりそこに楽しいという要素を入れて、単なる課題解決ではなくて、私たちが未来に向かっていくに当たって、より明るい未来をみんなで見たいなという思いを込めてのキャッチフレーズでございます。

これまで、がいなロード、これ米子駅でございますけれども、米子駅のがいなロードですとか、中海憩いのテラス、これは6月に完成をいたしました。それから今度は10月に完成予定でございますけれども、米子城の三の丸広場、こうした拠点の整備を今、一つずつ着実に実行してるところでございます。また、例えば境線の沿線におきましては土地利用の規制緩和を行っておりまして、河崎口などには今新たな分譲スペースもできているというところでございます。それから町なかにおきまして、だんだんバスの歴史コース、まちなかコースの本格運行を始めましたということもございますし、バスの無料DAYなどを行いまして、様々な形でハード面、ソフト面、事業をこれまでも実施してきたところでございます。これらの事業の検証をしながら、今後ものにぎわいの創出と市民生活の向上に必要な拠点施設の整備を進めていきますとともに、市民、それから企業、さらには行政が連携をして、町なかの居心地のよさ、あるいは魅力の向上、これを図るために歩いて楽しいまちづくりの実践を図っていききたい、そのように考えております。

○渡辺議長 渡辺議員。

○渡辺議員 市長、大変力強いお言葉、ありがとうございました。各エリアに点在する魅力的な活動や拠点、いかにして面に次は昇華させていくところだと思います。その中心となる核の整備こそが回遊性を生み出し、地域経済を循環させる原動力となると確信しております。点から面へ、この視点を持ち続け、先ほどありました市民、企業、行政が真に連携した歩いて楽しいまちづくりの実現を私も強くお支えしたいと思います。そして、この項目の質問を終わります。

次に、本市の持続可能な財政基盤の確立と地域ブランド力の強化について伺います。

まずは、ふるさと納税について伺います。ふるさと納税は、近年、寄附を通じた地域とのつながりづくりへとその役割をシフトしておりまして、関係人口を創出するための有力な入り口となっているものだと考えております。自治体にとっては、寄附額という税収だけでなく、将来的な移住者や地域課題を一緒に解決してくれる関係人口を獲得するための重要なマーケティングツールとなっているのが現状です。第2次米子市まちづくりビジョンにおいても、ふるさと納税制度を活用し、関係人口の拡大や地域産品のPRへの支援などが掲げられています。

この具現化に向け、3つの視点で伺います。1つ目は、寄附額の目標達成に向けた戦略についてです。近隣自治体との競争が激化する中で、他市との差別化をどう図り、寄附額の目標を達成させるのか伺います。

○渡辺議長 石田経済部長。

○石田経済部長 本市のふるさと納税につきましては、多彩な地域

産品を全国にPRし、地域の事業者を支援することを基本姿勢といたしまして寄附額の確保に取り組んでいるところでございます。今年度の目標額は11億円でございます、昨年度の実績を上回る寄附額の達成を目指しているところでございます。

本年度の取組といたしましては、7月に東京・新橋のアンテナショップとっとり・おかやま新橋館におきまして、ふるさと納税返礼品の試食販売や観光情報の提供、移住定住相談ブースの設置など本市のPRイベントを開催いたしまして、3日間で7,000人を超える方々にお越しいただいたところでございます。さらに、10月には、東京で開催されますふるさと納税の大手ポータルサイトが主催されるイベントに参加いたしまして、参加いただくふるさと納税に関心のある方々に対しまして、本市に関心を持っていただけるようPRを行う予定にしております。そのほか、あわせまして、ふるさと納税をされる方々のニーズを的確に捉えて、事業者の皆様と連携して新たな返礼品の造成にも努めていきたいというふうに考えてございます。以上です。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 ありがとうございます。単にニーズを追うだけでなく、本市独自のストーリーや作り手の情熱、そういったものを付加価値として乗せていけたらと思います。思わず応援したくなるような情緒的な魅力、目標の11億円、そしてその先の地域活性化に向けて共に工夫を凝らしていければと思います。

次、2つ目でございます。2つ目、寄附者との継続的なつながりについて伺います。一過性の支援で終わらせないため、寄附者限定のコミュニティ形成やデジタルマーケティングの活用など、ビジョ

ンにある関係人口の拡大を具現化するための戦略を伺います。

○渡辺議長 石田経済部長。

○石田経済部長 ふるさと納税をしていただいた寄附者の方に対して、これは御希望される場合ですけれども、本市のファンクラブ会員向けのメールマガジンを送付いたしておりまして、ふるさと納税返礼品の情報のほか、観光や移住定住、雇用情報など、本市の魅力や最新の情報を毎月配信しているところでございます。あわせて、パンフレットを通じて御寄附をいただいた方々に対しましては、最新版のパンフレットを送付するなど、途切れることのない関係性の構築に努めているところでございます。以上です。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 ありがとうございます。引き続き切れ目のないアプローチを継続していただければと思います。今後は、デジタル技術を活用し、寄附者の関心に合わせたアプローチも可能だと思います。データを分析して、戦略的に米子のファンを育てるデジタルマーケティングの視点も導入していただければと思います。

次、3つ目、来訪への誘導、リアルな交流への誘導についてです。ウォーカブルなまちづくりとも連動し、返礼品を通じて実際に本市を訪れていただくための仕掛けや現地での体験メニューの提供など、寄附者を米子へ訪れるファンへと変えていく具体策を伺います。

○渡辺議長 石田経済部長。

○石田経済部長 本市ならではの返礼品といたしましては、皆生温泉の宿泊割引券や日帰り入浴券、JR扇形車庫の見学ツアーを提供していただいております。また、本市に来訪していただいたとき、その場で御寄附のお申込みが可能となる現地決済型も導入してご

ざいまして、宿泊施設や皆生温泉マリンアスレチック、またはゴルフ場などでの支払いに、滞在期間中に即座に御利用いただけるクーポンを発行するものでございます。この現地決済型の寄附実績につきましては、令和6年度、件数が97件、寄附額677万4,000円、令和7年度は件数が155件、寄附額1,769万1,000円でございます。件数、金額ともに増加傾向でございます。

今後も地域の事業者と連携し、体験メニューの充実に努めまして、寄附者の方々が本市のファンとして何度も訪れていただけるような取組を進めていくこととしてございます。あわせまして、本市ならではの多彩な地域産品の魅力をアピールし、寄附額の増額を目指していきたいというふうに考えてございます。以上です。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 御答弁ありがとうございました。この温泉が気に入ったとか、このお店、応援したいなとか、そういった情緒的な価値ですね、そういったものをその場で寄附という形に代えてもらうのが現地決済型の寄附だというふうに今認識しました。単なる物のやり取りでは終わらせないようにして、現地に足を運んでいただき、まちを回遊してもらうための強力なツールにもなると考えております。そして実績も積み上がっているということで、来訪施策の進展を評価いたします。そして、このさらなる展開を期待いたしたいと思います。

今後は、医療都市型の増やしていくためのツーリズムだったり、飲食店特化型など、米子独自の魅力をさらに磨いてリピーターを生む深いつながりを築いていければと考えております。実効性のある関係人口の増加に向け、私も共に汗をかいていきたいと思っております。

で、どうぞよろしくお願いします。

次に、高齢者をはじめとする市民の皆様が住み慣れた地域で元気に暮らし続けられるためのフレイル対策について伺います。市長が推進されるウォーカブルなまちづくりは、中心市街地のにぎわいだけでなく、市民の健康増進、特にフレイル予防に直結する非常に重要な施策でございます。フレイル予防には、栄養、身体活動、そして社会参加の3つの柱が不可欠です。本市においても、市民の皆様が外出したくなるような空間整備とコミュニティへの参加を促す仕組みづくりを一体的に進めるべきだと考えます。

現在、市が実施しているフレイルチェックの普及状況、またICTを活用した健康ポイント事業などの進捗について伺います。あわせて、歩くことが自然と健康につながるフレイル予防の米子モデルについて、今後の取組、また展開について伺います。

○**渡辺議長** 足立福祉保健部長。

○**足立福祉保健部長** フレイル対策の現状と今後の展開についてでございます。65歳以上で要介護、要支援の認定のない方、約3万6,000人いらっしゃいますが、3万6,000人を対象に令和5年度からフレイル度チェックの案内を送付しており、毎年、約1万人に御回答いただいているところでございます。また、令和6年度からアプリを活用したよなご健康ポイント事業を実施しておりまして、フレイル予防に取り組むきっかけづくりや取組の継続を促すインセンティブとしてポイントを付与することで、健康状態の維持、改善や介護予防につなげております。

今後も引き続き事業効果を検証し、実効性を高めながら、市民が継続してフレイル予防に取り組んでいただけるよう事業を推進し

ていきたいと考えております。以上でございます。

○**渡辺議長** 渡邊議員。

○**渡邊議員** ありがとうございました。フレイルチェックや健康ポイント事業が既に市民の皆様の中に着実に認知されていること、実績を上げていることを再確認させていただきました。一方で、フレイル予防をより根本的に課題解決へとつなげるためには、高齢期に入ってから対応だけではなく、その手前の段階からの備えが不可欠だと思います。将来の健やかな米子を支えるためには、今まさに働き盛りである世代へのアプローチ、こちらも極めて重要であると考えております。

この観点から次の質問に移ります。繰り返しになりますが、フレイルは高齢期に急に始まるものではありません。現役時代からの積み重ねが要因となります。ビジョンが掲げる生涯を通じた健康づくりを具現化するため、現在、市として現役世代向けにどのような健康増進策を用意されてるのか伺います。また、仕事や育児で忙しい世代がもっと気軽に参加したいと思えるような仕掛け、職場や通勤圏内での取組、デジタル技術を活用した利便性の高い仕組みについて、さらなる拡充を検討されているのか伺います。

○**渡辺議長** 足立福祉保健部長。

○**足立福祉保健部長** 現役世代への取組についてでございます。働く世代からのフレイル予防といたしまして、40歳以上を対象に生活習慣病予防からフレイル予防につなげる取組を進めているところでございます。具体的には、令和7年度からよなご健康ポイント事業の対象者を40歳以上に拡大したほか、フィットネスジムやカルチャースクールなどに新たに入会し、一定期間継続していただい

た方には J - C o i n ボーナスをプレゼントするフレイル予防習慣化キャンペーンの事業も実施をしているところでございます。

引き続き働く世代に対しましても積極的に啓発し、行動変容を促すことで、将来のフレイル予防に向けた取組を推進していきたいと考えております。以上です。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 ありがとうございます。対象を40歳以上に拡大し、インセンティブを通じた運動の習慣化を促す取組、65歳以上の施策とは異なる現役世代のライフスタイルに即した非常に重要なアプローチだと評価いたします。

この世代の健康維持は、将来の医療・介護負担の軽減のみならず、本市の活力そのものを左右する極めて重要な未来への投資だと考えております。こうした個人の行動変容を一時的なものに終わらせず、社会全体の仕組みとして定着させていくためには、行政の枠を超えた視点が欠かせません。そこで、地域全体で予防を支える官民連携の現在の状況について伺います。

○渡辺議長 足立福祉保健部長。

○足立福祉保健部長 民間との連携状況についてでございます。市内の介護事業者などが中心となりまして、米子市フレイル予防推進協議会を組織し、事業への提言ですとか事業実施の支援を行っていただいているところでございます。市といたしましては、特にフレイル度チェック会場の設置ですとか、チェック後の予防実践の場面におきまして、介護事業者などと連携をしながら事業を実施しているところでございます。また、アプリでチェックをすることで、アプリ画面に表示する元気エンジョイパスポート事業につきましては

約 100 店舗に参加していただくなど、様々な形で業種の事業者の皆様と連携をしているというところでございます。

フレイル対策の大きな柱でございます運動と社会参加、これは本市の進めます歩いて楽しいまちづくりと親和性が高いと感じておりますので、引き続き様々な分野の事業者と密に連携をしながら施策を遂行していきたいと考えております。以上です。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 ありがとうございます。私は、フレイル対策は、単なる健康づくりの枠内にとどめておくのはあまりにも惜しいと考えております。本来フレイル対策は、繰り返しになります、身体活動、栄養、そして社会参加という3本の柱がそろって初めて実を結ぶものです。市長が進めるウオーカブルなまちづくりと連動し、日常の中で歩くことが健康につながり、それが社会活動や地域のにぎわいを生んでいく、このように歩くことで健康になり、歩くことでまちが稼ぐという経済の視点を組み込んだ仕組みこそが全国に誇れる米子モデルの本質だと確信しています。

このモデルを実現するためには、民間の皆様が創意工夫を存分に発揮できる舞台を整えることが不可欠です。それは健康部局だけではなく、都市整備の部局、経済の部局、それらが一つにつながる強力な縦割りを打破した横の連携があって初めて成し遂げられるものだと考えております。行政の役割は単なるルール管理にとどまらず、民間の活力を引き出す呼び水となり、共に汗をかく伴走者としての最高の環境を準備、用意する、提供することだと思います。この米子モデルを本市の勝ち筋として全国へ打って出る戦略として磨き上げ、官民連携による新たな挑戦へとつなげていただきたい。

既存の枠にとらわれず、実効性のある検討を強く強く要望し、この項目を終わります。

最後に、次代を担う子どもたちの育成について伺います。

令和9年の3月に予定されております中学2年生をオーストラリアのケアンズへ派遣する未来を創る子どものチャレンジ事業、こちら、子どもたちが多様な価値観に直接触れ、国際感覚を養う素晴らしい機会であり、私も大変期待しております。未来への投資であるこの事業を単発で終わらせず、継続的な事業として定着させていくべきと考えております。当局の意気込みを伺います。

そしてまた、帰国後に報告会が予定されてるということですが、それを単なる発表の場にとどめず、参加できなかった生徒や地域住民へと学びを波及させる仕組みにすることが重要だと思います。例えば報告会を動画やSNSで全市民に発信することであったり、派遣された生徒たちが、例えば、これも米子の未来アンバサダーとして小学校への出前授業を行ったり、地元の米子鬼太郎空港で活動を展示したりするなど、点ではなく、線でつながる還元の在り方について当局の考えを伺います。

○渡辺議長 浦林教育長。

○浦林教育長 未来を創る子どものチャレンジ事業の、まず継続性についてのお尋ねでございます。中学生の海外派遣は、自らの考えや気持ちを外国語で表現する力を高めるだけでなく、生活習慣や価値観の違いに気づき、異文化や背景の異なる人を尊重し、共生する態度を養うことができる大変な貴重な機会になるというふうに考えております。こうしたことから、この事業の継続につきましては、派遣後の事後研修会や報告会など、様々な面から目標が達成できて

いるということが前提になりますし、それからまた、議会のほうでも予算を認めていただかなければなりませんけれども、教育委員会としましては、単年度の事業ではなくて、継続した取組にしていきたいというふうに考えております。

次に、帰国後の還元の在り方についてでございますが、今年度のオーストラリアへの海外派遣は、令和9年3月、中学校2年生を対象に実施しますので、来年、令和9年度の中学校1年生に対しまして、これは中学校1年生が全員集まる会でありますけれども、米子市中学校総合文化祭で派遣報告を行う予定としております。また、各中学校や各中学校区での児童生徒同士の交流の場を盛んに行っておりますが、そういった場を活用したりしながら同世代の児童生徒の学びや外国語を学ぶ意欲づけにしたいというふうに考えております。このたび議員のほうからもいろいろ御提案をいただきました内容を含めまして、より効果的な方法を考えながら市民や児童生徒に広く還元していきたい、このように考えております。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 ありがとうございます。継続した取組にしていきたいという力強いお言葉をいただきました。ありがとうございます。攻めの事業です。ぜひぜひ私も応援したいと思います。ただ、もちろん新規事業だということでございますので、事後検証を通じて事業をブラッシュアップしていくこと、これはもちろん不可欠でございます。教育の効果、短期間で図れるものではありません。10年後、20年後にその事業を経験した若者たちが、米子の、あるいは日本のリーダーとして活躍する姿こそがこの投資の真の成果であると考えます。この事業が本市の宝を育む確固たる伝統となるよう、今

後のさらなる充実を強く要望いたします。

あわせて、派遣先の選択肢についても提案をさせていただきたいと思います。本市には米子鬼太郎空港、大きな資産があります。そして、ここにはソウル定期便が運航されています。韓国、こちら最先端のＩＴ技術やエンターテインメント文化、さらには歴史教育など、学生が学ぶべき要素が凝縮されている国であります。移動時間の短縮や親御さんたちの経費の効率化も含めてですが、そういったメリットがあります。そして地元の空港を利用して海外へ羽ばたく経験、自分たちのまちには世界とつながる港、空港があるんだ、そういった郷土愛の醸成にも直結すると考えております。多様な視点の獲得や、より多くの生徒への機会提供という観点から、オーストラリアに加え、次年度以降の候補として韓国への派遣も検討に値すると思いますが、見解を伺います。

○渡辺議長 浦林教育長。

○浦林教育長 韓国への児童生徒の派遣についてのお尋ねでございます。議員のおっしゃるとおり、若い世代が海外交流することは、新たな人や物に触れて視野を広げることができる絶好の機会というふうに私どもも捉えております。また、直接海外と結ばれている米子鬼太郎空港を活用することも、今後の事業の在り方を考える上で重要な要素だと考えております。こうした思いはございますが、まずは本市で初めてとなりますオーストラリアへの海外派遣を充実したものとしまして、英語教育を推進するという目的を達成したいというふうに考えております。韓国を含めたその他の地域への派遣につきましては、より多くの児童生徒への機会の提供といった観点も踏まえまして、事業の在り方、国際情勢などを勘案した上で、

今後の選択肢の一つとして考えていきたいというふうに思います。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 ありがとうございます。もちろんおっしゃったとおりで、まずは本市にとって初めてとなるケアンズへの派遣において着実に実績と成果を積んでいただくことを期待しております。その上で、地元空港という資産を最大限に生かし、英語圏にとどまらない多様な学びの選択肢を検討いただくことは、生徒の可能性を広げる大きな一歩となります。将来的に、より多くの子どもたちが世界を身近に感じられる環境が整っていくことを願い、今後の展開を注視していきたいと思います。

この項目の最後に伺います。市長は、次代を担う子どもたちの教育こそ最も重要な投資であると述べられています。今回の海外派遣事業を含め、子どもたちが家庭の経済状況にかかわらず、自らの可能性を広げられる機会を市が公的に支援していくことは、まさに住んで楽しい、住んでよかった米子の根幹にも通ずるところだと思います。ぜひとも応援していきたいと私も考えております。この事業を通じて多様な経験を積んだ子どもたちの中から、将来、学問やビジネスの分野、あるいはスポーツや文化芸術、それぞれの道で日本一と輝くような存在が生まれること、そんな米子の宝が次々と育っていく姿を見ることができれば、これほどうれしいことはありません。この事業を通じて、どのような米子の未来の担い手を育てたいと考えておられるのか、改めて市長の思いを伺いたいと思います。

○渡辺議長 伊木市長。

○伊木市長 議員が御指摘いただきましたけども、教育こそ最大の投資であるというのは私の考え方でございまして、これまでも様々

な形で教育分野に対する施策を教育委員会と一緒にやってきたわけですが、これまでは、どちらかといいますと、支援が必要なお子さんに対する政策、これが中心としたものが大半だったんですけれども、やはりもっと伸びていこうとか、ある特色のある分野で活躍したいとか、そういったお子さんたちに対する支援というのをもう少し充実させることが必要であろうということで考えた事業が、このたびの未来を創る子どものチャレンジ事業でございます。英語圏に行くということが一つ大きな目的でありまして、これは今回オーストラリアのケアンズに行くことになったわけですが、英語を武器に将来何か活躍する、国際的にも活躍したいというようなお子さんたちにとって貴重な体験になるように、これは教育委員会のほうでいろいろと考えてくれたというところでございます。

単に英語圏に行くといって、そこで英語を使ってみるとか、そういうことだけでなく、行った先でふるさと米子のことを何か説明できるように、こういったところが誇りに思うところだとか、とても好きなところだとか、やはりその部分も非常に大事なところだと思います。国際的に活躍するということの前提に、やはり祖国日本、あるいはふるさとの思いというものを持っているかどうかというのは非常に重要なポイントですので、それを、短い期間でありますけれども、勉強した上でこの事業に参加してもらおうということになっております。

引き続き教育委員会と連携を図りまして、様々な取組を通じて子どもたちの前向きな挑戦を後押しすることによって、多様な価値観を認めながら自分の力で進んでいくことのできる子どもを育成す

る教育に力を入れていきたいと考えております。

○渡辺議長 渡邊議員。

○渡邊議員 ありがとうございます。この攻めの施策、ふるさただけではなくて、祖国の我が国のためにという視点、大変大変心強く感じております。教育を最大の投資と位置づけ、家庭の経済状況に左右されることなく、全ての子どもたちに挑戦の機会を保障していく姿勢こそが自治体としての真の底力であると信じております。今回の海外派遣事業のように、世界という広い舞台を経験し、同時に、外からの視点、こういったことを持つことでふるさと米子の価値を再発見する、グローバルな視点と郷土への誇り、日本への誇り、この両輪を備えた子どもたちが育つこと、まさに本市の未来そのものでございます。多様な価値観を認め、自分の力で歩いていく米子の宝たちがそれぞれの分野で日本、そして世界へと羽ばたき、いつかまたこのまちを支える大きな力となってくれる、そんな循環が生まれることを心より期待し、私もこの事業、そして市長の思い、教育長の思い、共に応援してまいりたいと思います。

最後になりますが、市長はじめ執行部の皆様、誠実な御答弁、誠にありがとうございました。本日は、点から面へという視点で中心市街地の拠点づくりから、健康と経済をつなぐフレイル対策、未来への投資まで議論させていただきました。私も市民の代弁者として現場で汗をかき、市政のハブとなれるよう日々精進を重ねてまいることを申し上げ、一般質問を終わります。誠にありがとうございました。一般質問を終わります。